

## ○ Reach Online 2005の研究目的

---

本研究は、1) ゲイ・バイセクシュアル男性のインターネット利用層におけるHIV感染予防行動の動向把握を通じて経年的モニタリングを実施すること、2) HIV感染予防行動に関連する心理・社会的要因を明らかにすること、3) インターネットを介したHIV予防プログラム実施に役立つ情報を得ることを目的に実施されました。

## ○ 研究方法

---

これまでに男性と性経験のある男性を対象として、無記名自記式質問票調査をインターネット上のホームページを介して実施しました（研究実施時期：2005年8月11日～11月30日）。調査実施のご案内はゲイサイトにおけるバナー広告、Yahooオーバチュア広告、ミクシイおよびゲイ対象メーリングリスト、ゲイ雑誌に記事掲載、フライヤー、HIVボランティア団体のニュースレター等を通じて行いました。

質問票回答にあたっては、研究目的と研究参加方法を明示した研究参加同意書（オンラインインフォームドコンセント）によって研究参加の意思確認を行いました。また、回答データはSSL（Secure Socket Layer）で保護され、暗号化された上で本研究専用のインターネットサーバに送信される仕組みとしました。また、IPアドレスおよび“クッキー”機能を活用することによって重複回答の検証を行い、当該研究対象者であるかどうかはワードトレサを質問票に盛り込むことにより、スクリーニングを実施しました。また、調査に用いたインターネットサーバは他のインターネットコンテンツとの共有は一切無く、本研究専用として運用しました。

## ○ 研究結果

---

回答総数は6,255件であり、未回答部分が大半を占める質問票や重複回答と判断できるものは分析から除外しました。その結果、有効回答数は5,731件でした。本研究の実施告知はゲイサイトにおけるバナー広告等を通じて実施しましたが、参加者が本研究を知った方法の内訳はバナー広告が75%、ミクシイが8.4%、その他が11.1%であり、バナー広告の効果が圧倒的であることが示唆されました。

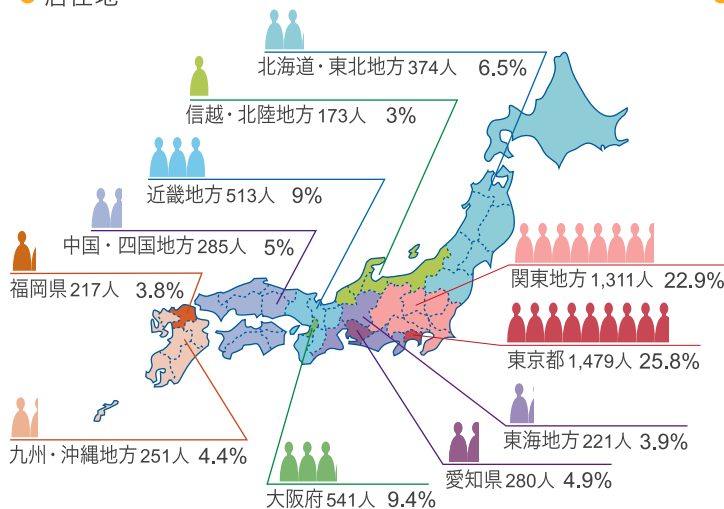
## ● 基本属性

---

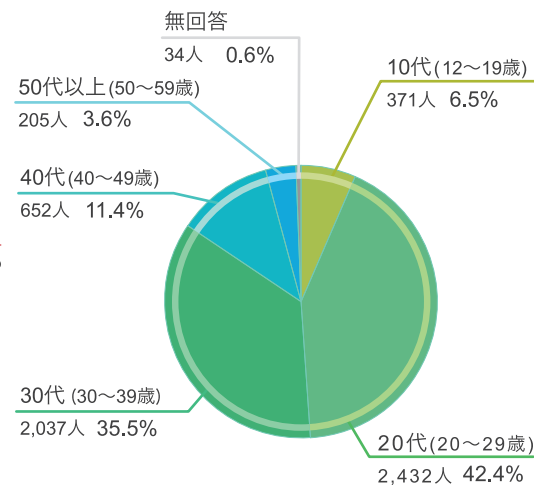
研究参加者の平均年齢は30.8歳（最小年齢12歳-最高年齢82歳）であり、年齢構成は10代6.5%、20代42.4%、30代35.5%、40代11.4%、50代以上3.6%でした。居住地域は関東地方（東京都を除く）22.9%、東京都25.8%、近畿地方（大阪府を除く）9.0%、大阪府9.4%をはじめとする都市部からの回答が比較的多い傾向にありましたが、47都道府県全てから回答を得ることができました。自認する性的指向はゲイ67.5%、バイセクシュアル25.9%、判らない2.1%、決めたくない3.0%でした。学歴は大学卒業以上が56.4%、婚姻形態は未婚87.5%、既婚8.5%、別居0.3%、離婚2.8%、死別0.1%でした。その他の属性は④を参照してください。

④ REACH Online 2005 研究参加者の基本属性 (有効回答数5,731人)

● 居住地



● 年齢分布



● 基本属性

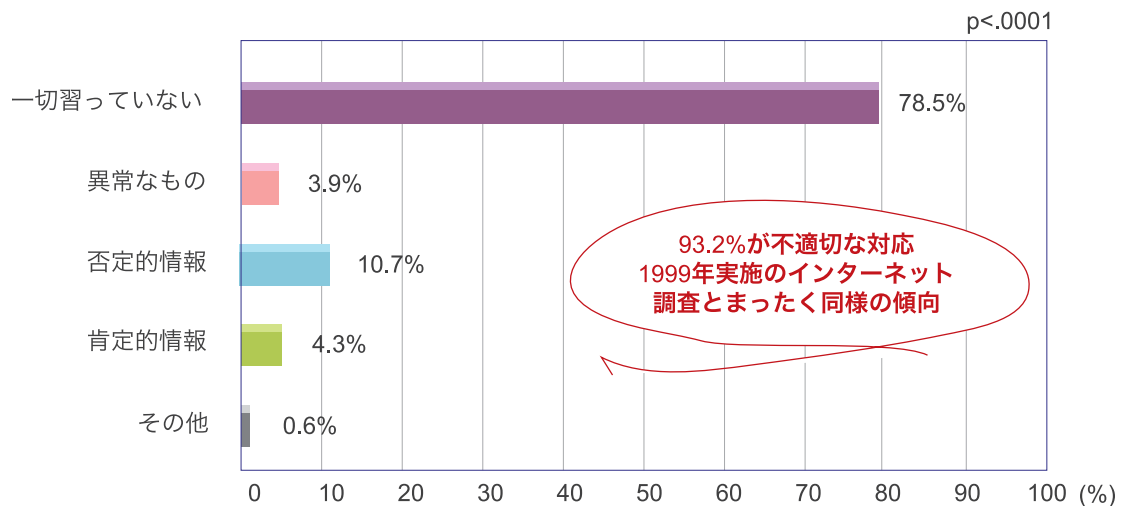
基本属性	人数	%
自認する性的指向		
ゲイ	3,868	67.5
バイセクシュアル	1,484	25.9
ヘテロセクシュアル	48	0.8
決めたくない	172	3.0
判らない	120	2.1
その他	17	0.3
無回答	22	0.4
学歴		
大学院修了(在)	476	8.3
大学卒(在)	2,759	48.1
短大卒(在)	159	2.8
専門学校卒(在)	870	15.2
高校卒(在)	1,294	22.6
中学卒(在)	155	2.7
無回答	18	0.3
職業		
学生	931	16.2
パートタイム	570	9.9
フルタイム	3,538	61.7
無職	288	5.0
その他	386	6.7
無回答	18	0.3
婚姻形態		
未婚	5,013	87.5
既婚	488	8.5
別居中	20	0.3
離婚	161	2.8
死別	8	0.1
無回答	44	0.7
恋人がいる		
相手が男性	2,361	41.2
セックスフレンドがいる		
相手が男性	1,904	33.2
心を許せるゲイ・バイセクシュアルの友達		
いる	3,731	65.1
心を許せる異性愛の友達		
いる	3,361	58.6

基本属性	人数	%
肝炎予防ワクチン接種あり		
A型肝炎	178	3.1
B型肝炎	335	5.8
過去1年間の献血		
あり	718	12.5
親へのカミングアウト		
カミングアウトしている	791	13.8
両親ともに	417	7.3
母親のみ	341	6.0
父親のみ	33	0.6
親以外へのカミングアウト		
カミングアウトしている	2,546	44.4
1人だけ	478	8.3
2人~3人	637	11.1
4人~5人	428	7.5
6人~9人	165	2.9
10人以上	757	13.2
過去6ヶ月間にコンドームを買ったこと		
あり	2,343	40.9
過去1年間にコンドームを買ったこと		
あり	3,026	52.8
スポーツクラブ		
入会している	1,568	27.4
喫煙状況		
吸わない	3,170	55.3
時々吸う	359	6.3
毎日吸う	2,155	37.6
飲酒状況		
飲まない	1,562	27.3
時々飲む	3,279	57.2
毎日飲む	853	14.9
日本に同性婚の制度があればいいと思う		
そう思う	3,363	58.7
そう思わない	656	11.4
どちらとも言えない	1,674	29.2

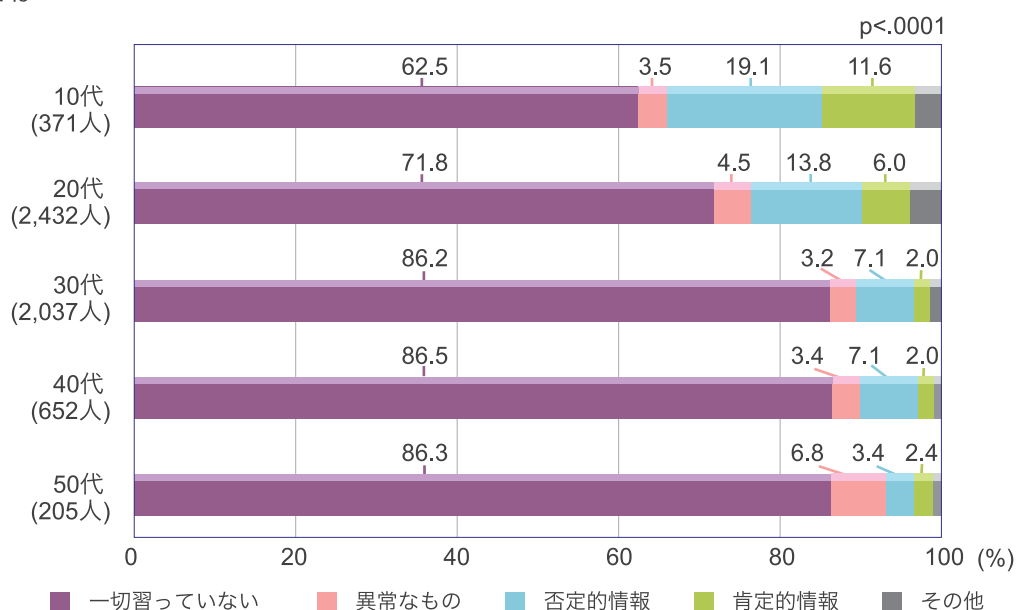
## ● 教育現場における同性愛についての情報提供

学校で同性愛について「一切習っていない」が全体の78.5%、「異常なもの」が3.9%、「否定的情報」が10.7%であり、これまでに全体の93%以上が教育現場において同性愛について不適切な情報提供や対応をされていることが明らかになっています。この結果は1999年実施の調査結果と全く同様の傾向でした。現行のわが国の学習指導要領など教育現場のガイドラインに、性的指向を含めたセクシュアリティについての教育方法は何ら明示されていません。そのため、教育現場では多様なセクシュアリティの取り扱いに躊躇する場面があることも推察できます。しかしながら、同性愛について否定的な情報提供をされた者は全体の10%を超え、10代ではその割合は19.1%にのぼっており、5人に1人は教育現場で否定的な情報を与えられていることが示唆されています⑤。1学級に1人～2人は存在すると見積られる非異性愛の児童・生徒に対して、同性愛をはじめとする性的指向やセクシュアリティに関して少なくとも中立的・客観的な情報提供が必要と考えられます。

### ⑤ 教育現場における同性愛の扱い (有効回答数5,731人)



### ● 年代別では

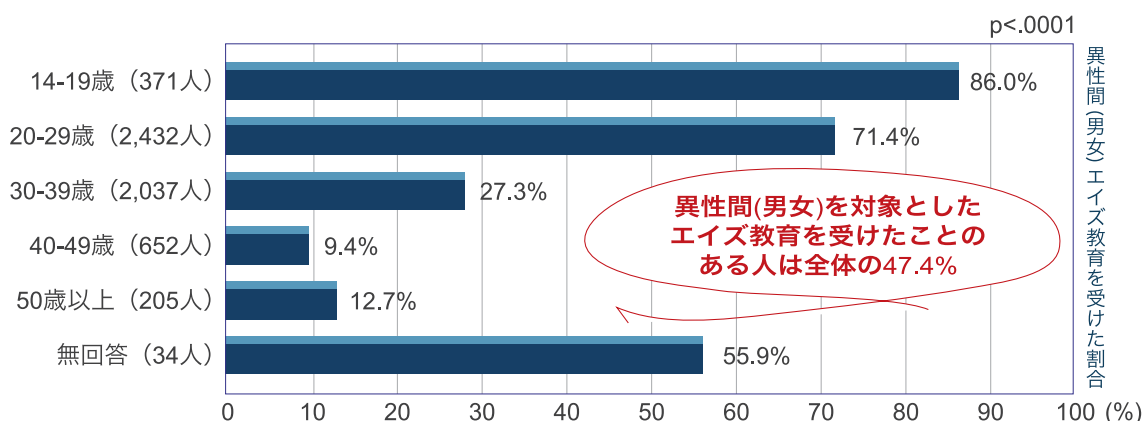


## ● エイズ予防教育（男女、男性同性間対象それぞれ）

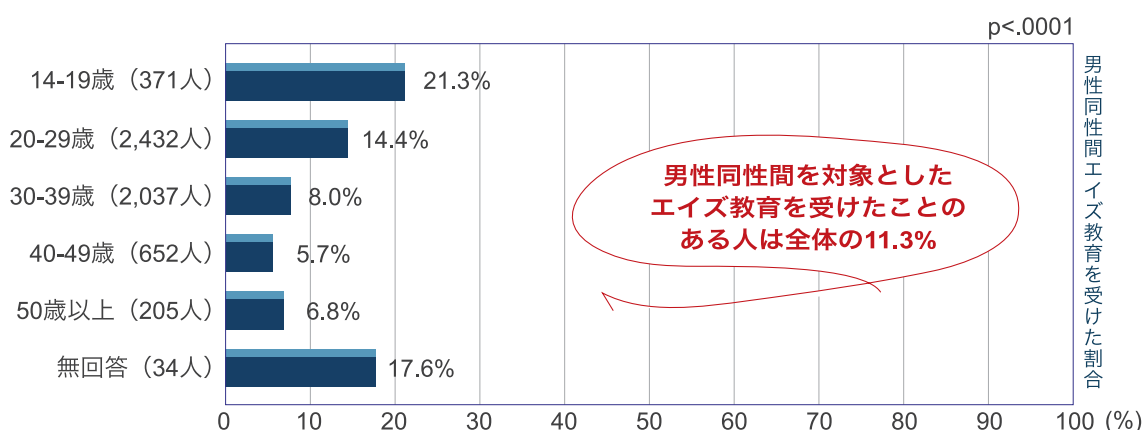
これまでの学校教育等においてエイズ予防教育を受けてきたかどうか尋ねました。男女間のHIV感染の予防教育を受けたことがある人の割合は全体の47.4%であり、10代は86.0%、20代は71.4%、30代は27.3%であり、若年層のその割合は高い傾向にありました。また、男性同性間におけるHIV感染予防教育を受けたことがある人は全体の11.3%であり、男女間の教育と比較するとその割合は明らかに低いことが示唆されました⑥。わが国では男性同性間の性的接触によるHIV感染の拡大が最も顕著であるにも関わらず、教育現場におけるHIV予防教育の内容は必ずしも実態に即しているとは言えない現状にあると考えられます。

### ⑥ これまでに学校でエイズ教育を受けた割合（有効回答数5,731人）

#### ● 異性間(男女)を対象とした教育



#### ● 男性同性間を対象とした教育

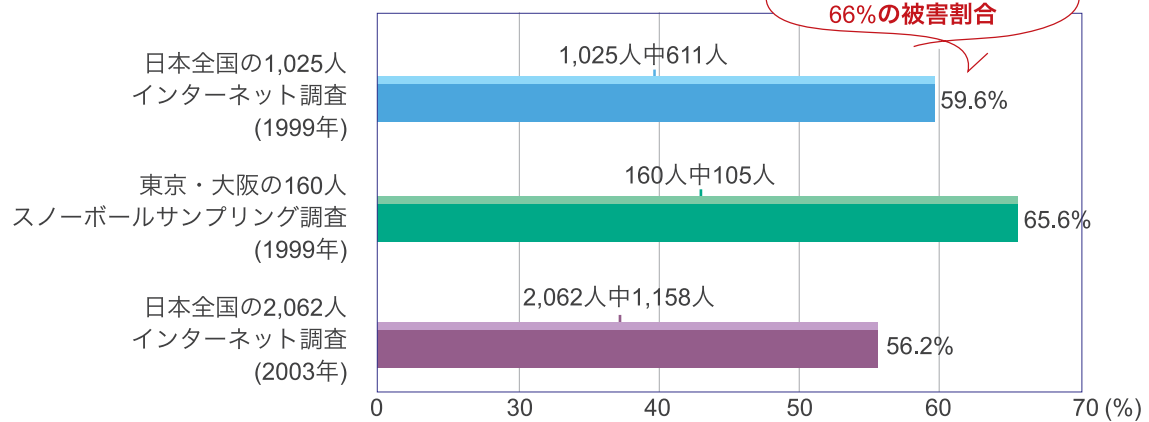


## ● いじめ被害、避難場としての保健室、性被害

先行研究においてもゲイ・バイセクシュアル男性のいじめ被害割合が概して高いことや、学校教育現場における適応の問題など指摘されていますが⑦、本研究においても同様の結果でした。これまでに、「学校で仲間はずれにされていると感じたことがある」人は全体の42.7%、「教室で居心地の悪さを感じたこと」は57.0%、「ホモ・おかま」言葉による暴力被害は54.5%、「言葉以外のいじめ被害」は

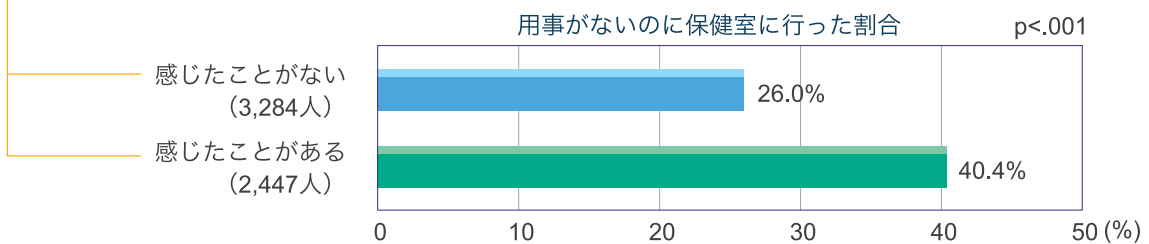
45.1%でした。また、こういった学校生活における葛藤や適応の困難があった人ほど、用事がないのに保健室に行った割合は有意に高いことが示されました<sup>⑧</sup>。また、これまでの性被害経験割合は21.4%でした。

⑦ ホモ・おかま・おとこおんな言葉によるいじめ被害割合

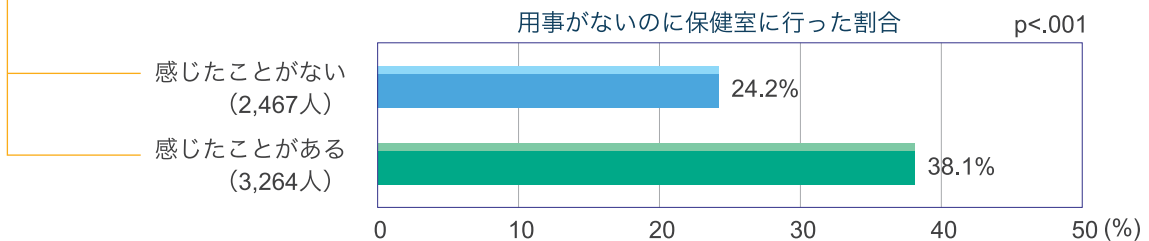


⑧ 教室での出来事と保健室 (有効回答数5,731人)

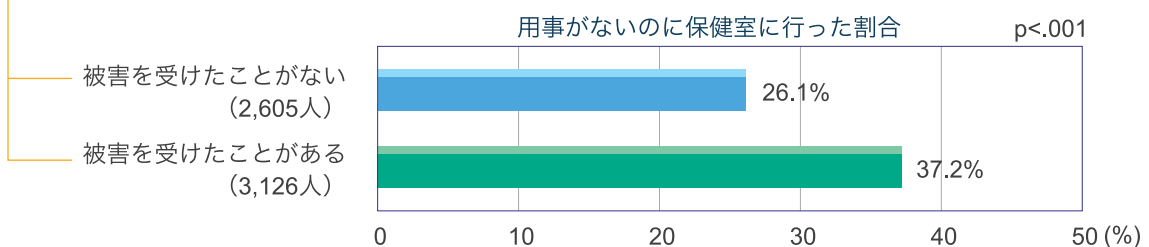
● 学校で仲間はずれにされていると感じたこと(全体で42.7%)



● 教室で居心地の悪さを感じたこと(全体で57.0%)



● 「ホモ、おかま」などの言葉による暴力被害(全体で54.5%)



● 言葉以外のいじめ被害(全体で45.1%)

